

103-329

問題文

58歳男性。CD20陽性のびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫と診断され、R-CHOP療法による治療が行われることになり、薬剤師は以下の処方を確認した。

	薬品名及び投与量	投与速度 又は時間	投与日
1	リツキシマブ注射液 375 mg/m ² 生理食塩液で 10 倍希釈	200 mg/h	1 日目 8 日目 15 日目
2	グラニセトロン点滴静注バッグ 3 mg	15 分	1 日目
3	シクロホスファミド水和物注射用 750 mg/m ² 生理食塩液 250 mL	15 分	1 日目
4	ドキシソルピシン塩酸塩注射液 50 mg/m ² 生理食塩液 50 mL	60 分	1 日目
5	ピンクリスチン硫酸塩注射用 1.4 mg/m ² (最大 2 mg/body まで) 生理食塩液 50 mL	15 分	1 日目
6	プレドニゾン錠 60 mg/body	経口 (朝食後、昼食後)	1 ～ 5 日目

- 1コース期間：3週間
 - 総コース数：6～8コース
 - d-クロルフェニラミンマレイン酸塩錠2mg 1錠及びイブプロフェン錠200mg 1錠を服用する。
- 担当医師に提案すべき内容として、適切なのはどれか。2つ選べ。
1. リツキシマブの点滴速度は少しずつ上げていく。
 2. グラニセトロンは、リツキシマブの後に投与する。
 3. ドキシソルピシン塩酸塩の点滴速度は少しずつ上げていく。
 4. d-クロルフェニラミンマレイン酸塩とイブプロフェンは、リツキシマブの投与開始30分前に投与する。

解答

1, 4

解説

選択肢 1 は、正しい記述です。
リツキシマブの初回投与時は、患者の状態をよく観察しつつ 50mg/時 から 徐々に速度を上げていきます。

選択肢 2 ですが
グラニセトロンは、 5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤です。 リツキシマブの副作用としての嘔吐に対して 支持療法の一環として用いられます。 予防的投与として リツキシマブに対して「前投与」を行います。 後ではありません。 よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 ですが
ドキシソルピシンの点滴速度は、 徐々に上げる必要はありません。

選択肢 4 は、正しい記述です。

d - クロルフェニラミンマレイン酸塩 及びイブプロフェンは、それぞれ インフュージョンリアクションによる アレルギー様症状、発熱・炎症予防に 用いられます。

以上より、正解は 1,4 です。